

平成19年 5月17日

平成18年度バイオマイクロセンシング技術研究センター評価委員会報告

- 1、日 時 平成19年5月17日（火）16:30～17:30
2、場 所 サテライトVBラボラトリー
3、出席者 下村 輝夫（学長；評価委員長）
小田 禮司（（財）北九州産業学術推進機構ヒューマンクノクラスター
推進センター担当部長（科学技術コーディネーター））
竹中繁織（センター長）

4、活動報告

センター長から、平成18年度の活動について、資料に基づいて報告があった。報告の概要は以下の通りである。

○活動概要

①次の3つのプロジェクトを中心に研究開発を行った。地域新生コンソーシアム事業においてはテロメラーゼ活性を指標とする癌の早期診断技術開発におけるバイオマイクロセンシング技術開発を行った。企業との共同で試作装置を作成した。都市エリア産学官連携促進事業においては、電気化学的検出法を利用したヌクレアーゼの高感度を達成した。JST 重点地域研究開発促進事業「シーズ育成試験」では赤外分光法を利用した細胞の特性化に関する研究を行った。今後のバイオマイクロセンシング技術において細胞を組み込んだシステムの構築が重要となると期待されるが、その基盤を築くことができた。

②上記プロジェクトに関わる外部資金は以下の通りである。

- ・経済産業省、地域新生コンソーシアム事業（竹中）：
平成18年度 35,000 千円（九工大に 10,000 千円）
- ・文部科学省、都市エリア産学官連携促進事業（竹中）：
平成18年度 2,000 千円
- ・JST 重点地域研究開発促進事業（竹中）：
平成18年度 2,000 千円
- ・科研費（竹中）：
平成18年度 20,000 千円

③センター研究員の外部資金導入状況は以下の通り。

横野照尚教授

- ・日産財団、科研費など 20,000 千円

清水 陽一教授

- ・ JST-CREST、環境保全のためのナノ構造制御触媒と新材料の創製
平成18年度 5,380 千円

④安田隆助教授

- ・ 文部科学省、神経細胞の分化を制御するマイクロ流体システムの構築
平成18年度 2,500 千円

⑤学会活動（メンバーの個別の学会活動等は略す）

- ・ 平成18年12月20日、表面バイオエレクトロニクス研究会を開催。
- ・ 2007年2月7日、14日、バイオ機器勉強会を共催。
- ・ 2007年5月18日 バイオマイクロセンシング技術研究センター成果発表会
「工学技術とバイオの融合」を開催。

5、報告の後に下記の意見を頂いた。

- ①工学部の竹中繁織教授を中心にセンターのさらなる発展を図るためメンバーの組み換えを含めた大きな組織の組み直しを考えてはどうか。
- ②各メンバーは学問的にも優れて研究を行うとともに外部資金獲得のために努力する。
- ③大学として人事も含めた支援措置を取ってほしい。
- ④ポスト知的クラスター創成事業でセンターのメンバー2名がグループ代表となっている。獲得できるように努力する。
- ⑤メンバーを戸畑地区の教員（横野、清水、植田、坪田）を加え、バイオマイクロセンシング技術研究の基盤を整えた。
- ⑥北九州バイオ産業クラスター戦略会議のバイオ計測機器研究会の立ち上げを行ったが、センターがどのように協力すべきか検討する必要がある。
- ⑦HPの立ち上げ、研究会の主催や共催を行ってきてセンターの広報活動を果たしてきたと思われる。今後、より活発に広報活動も行う。

6、評価委員会としての結論

センターの活動は活発であり、前年度に比べより成果が上がっているため、今後も九工大のバイオセンシング技術分野の研究をリードさせたい。しかし、今後センターをさらに活発にするためメンバーの見直しを含め検討する必要がある。また、センターとしての人員を確保する必要がある。